

各フロアのまとめ



南館 2 階の報告

利用者様・家族様、関係者の皆様にはあたたかいご支援・ご協力を頂きありがとうございました。

平成30年度の南館2階はフロア行事や園行事への参加を率先して行い、園内での取り組みの充実を図る事で利用者の皆様楽しんで参加して頂ける機会を多く持つことを心がけ取り組んでまいりました。行事の内容にも好みが見られ、積極的に参加されたり、そうでなかったりとありましたが、行事・イベントが多く企画されたことでお一人お一人の好みに合った内容を選んで参加していただく事が出来たのではないかと思います。

感染症の流行時期には感染対策委員会を中心にフロアの消毒や換気に留意し、平成30年度南2階フロア利用者様からのインフルエンザ発症をゼロに防ぐことが出来ました。看取りにも関わらせて頂きました。命の尊さ・人生の尊さを職員一人一人が改めて学ばせて頂き、これからも気持ちを新たに引き締めて取り組ませて頂きたいと思います。

業務の面では生活援助の見直しや職員の業務改善、接遇面での見直しを行いました。職員それぞれに課題もありますが、個人の力・チームの力で状況に応じた対応が取れるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。

令和元年、利用者様の笑顔と活気と笑い声、そしてお一人お一人が楽しく生活できるフロアづくりを目指していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

南館2階係長 高本 竜太郎



南館 3 階の報告

30年度の南館3階は「安全」「安楽」「安心」「安眠」「安穩」という五つの「安」を意識しながら、その人らしい生活を提供できるように努めてまいりました。

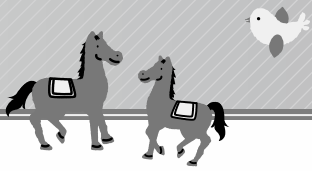
またご利用者自身は勿論のこと、ご家族にもこの五つの「安」を提供できるように努めてまいりました。その為にご家族にはご足労をお掛けしましたが、ご利用者の生活をご理解いただけるよう甲寿園で行うカンファレンス等にできるだけ参加していただき、それを通して連絡・報告を密に行いました。

来年度も引き続きご家族の協力を得ながらご利用者の安全を第一に考え、援助をさせていただきたいと考えています。

そして少しでも多くご利用者とご家族の笑顔が増やせますように援助員一同創意工夫してまいります。

今年度も温かい眼で見ていただいた事にお礼を申し上げますと同時に来年度も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

南館3階係長 日笠 君彦



北館 2 階の報告

平成 30 年度は、
「利用者様 1 人 1 人との時間を大切にして、心優しい援助を行う。」
「チームワークを大切にして、利用者様も職員も笑顔になれる環境作りを行う。」
という 2 つのフロア目標のもとスタートしました。

職員の体制が厳しいときが続いたり、思わぬ怪我をした職員もでた状況ではありましたが、みんなの頑張りで何とか 1 年間乗り切ることができました。

体制が厳しい中、毎年盛大に行っていたクリスマス会や節分の豆まき等は規模を縮小し、花火大会等は行う事ができませんでした。そのような状況の中で、なかなか利用者様 1 人 1 人との十分な関わりが出来ていないのではないかとこころ痛めていた折、看取りの利用者様が亡くなられた際に家族様より「甲寿園の北 2 階で看取りケアをしてもらい本当に良かった。」と言っていただけた事は職員の大きな力となりました。

平成 31 年度は 30 年度になかなか出来なかった小さな利用者様との関わりを、より大切にしていきたいと思えます。天気の良い日に園庭にでたり、利用者様 1 人 1 人とのコミュニケーションを少しでも多く取る事により、利用者様の笑顔が多く見られるようなフロアでありたいと思います。本年度もよろしくお願いします。

北館 2 階係長 山澤 真二



北館 3 階の報告

はじめに、30 年度もご利用者・ご家族、関係者の皆様にはあたたかいご支援・ご協力を頂きありがとうございますございました。

30 年度の北館 3 階は《愛・笑顔・認め合い》を年間のフロア目標に掲げ、笑顔の多い、お互いの存在や価値を認め合い、愛のあるフロアを目指してまいりました。また、前年度に引き続きおやつ作りやレクリエーションなどのフロア行事や園行事への参加を率先して行い、園内での取り組みの充実を図る事で利用者の皆様に楽しんで参加して頂ける機会を多く持つことが出来たと思います。

1 年を通して利用者様によるクッキングも前年度に引き続き行ない、たくさんの方に参加して頂きました。楽しそうに調理されている姿を見て、「毎日の献立に悩み考えて調理をしていたころが良い思い出になっておられるのだろうか」と思わせて頂ける有意義な取り組みとなりました。

業務の面では生活援助の見直しや職員の業務改善、接遇面での見直しを行いました。職員それぞれに課題もありましたが、苦しい時も一致団結し笑顔を決めず業務遂行できたのは、個人の力・チームの力をもって、状況に応じた対応ができるよう取り組めた結果だと思えます。

平成 31 年度もご利用者の皆様と共に愉しく笑顔と活気と笑い声で満ちたフロアづくりを目指していききたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

北館 3 階主任 藤原 志穂



各フロアのまとめ

ケアプラン室の報告

1. 平成 30 年度 (平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月) のケアプラン作成実績表

	北館 2 階	北館 3 階	南館 2 階	南館 3 階	計
4 月	2	4	2	4(2)	12(2)
5 月	2	1(1)	6(2)	7(5)	16(8)
6 月	3	4	6(1)	6(2)	19(3)
7 月	5(1)	5(1)	5	6(2)	21(4)
8 月	3(1)	6(1)	5(1)	7(1)	21(4)
9 月	3(1)	3(1)	5(2)	3(1)	14(5)
10 月	2(1)	3(2)	6	3(1)	14(4)
11 月	3(1)	7	4(2)	8(1)	22(4)
12 月	3	4	6	5(1)	18(1)
1 月	3(2)	4	7(1)	6(2)	20(5)
2 月	3(1)	6(1)	6(1)	5(2)	20(5)
3 月	4	3	4	6(1)	17(1)
計	36	50	62	66	214(46)

() 内は新入所の利用者の初回のケアプラン件数

2. ケアプランの作成～お気持ちに寄り添いながら

平成 30 年度も引き続き、ご利用者の生活スタイルを大切に、ご家族に意向の確認をさせて頂きご本人、ご家族のお気持ちに寄り添いながら、楽しみを持つことが出来るようなケアプラン作成に取り組みました。

ケアプラン作成実績は初回、定期、緊急の見直し（看取り介護のケアプラン）を合わせて、214 件のプランを立案しました。

3. ケアプランの作成と見直しについて

平成 30 年度は 46 名の新入居があり、初回のケアプランが作成されました。そのうち、ご入居されて 3～6 ヶ月後に見直しを行いました。また、1 年に 1 回の定期的見直しプランを 186 件、状態変化による緊急の見直しプラン（看取り介護のケアプラン）を 28 件合わせて 214 件のプランを作成しました。

4. サービス担当者会議

ご利用者本人、ご家族、後見人、担当援助員、看護師、管理栄養士、機能訓練指導員、介護支援専門員がそれぞれ意見交換を行い、個人のニーズにあったケアプランを立案しました。会議を開催するにあたり、出来るだけ多くのご利用者、ご家族に参加して頂く為に、事前に開催のお知らせ（ご意向書）を送付し、カンファレンスの参加を案内しています。

5. 栄養ケアマネジメント・個別機能訓練計画書・褥瘡ケアマネジメント・ケアプラン全体のお知らせ

平成 30 年 2 月より「褥瘡ケア・マネジメント」を新たに追加し、3 ヶ月毎にご利用者様の皮膚の状態を確認、ケアプランに反映し褥瘡予防に努めています。「栄養ケア・マネジメント」「個別機能訓練計画書」についても引き続き管理栄養士、機能訓練指導員、担当援助員と協力しながらケアプラン作成日より 3 ヶ月毎にアセスメントを行い、プラン作成 6 ヶ月後にはモニタリング報告としてご家族にサービスに提供状況（継続させて頂いている事や、変更点等）を報告させて頂いております。また、ご利用者主体によるクッキング作りの様子も写真と共に送付し、ご家族からも喜んで頂いております。

6. ケアプラン委員会の開催

専任ケアマネージャー 2 名、フロアの兼任ケアマネージャー 6 名の参加で、ケアプラン作成、サービス担当者会議、モニタリング、各フロアの情報交換等、ケアマネジメントに関する委員会を 6 回開催しました。今後も各専門職との連携を図り、質の高いケアプラン作成に向けて努力していきたくと思っています。

特養専任介護支援専門員 柳瀬 伊都美・杉山 吉秋



栄養室より

栄養量などの状況

施設用荷重平均栄養所要量			平成31年3月31日 現在		
		栄 養 所 要 量			
年 齢	性 別	エ ネ ル ギ ー (kcal)	タ ン パ ク 質 (g)	脂 質 (g)	対 象 者 数 (人)
50 ～ 69	男	2100	60	57	2
50 ～ 69	女	1650	50	46	1
70 以上	男	1850	60	44	20
70 以上	女	1450	50	38	145
平均		1507	51.3	39.0	168

平成30年4月～平成31年3月までの年間栄養量（普通食1日平均）

	栄養摂取目標量（普通食）	1人1日当たり給与量
エネルギー	1450kcal	1514kcal
たんぱく質	50g	54.8g
脂質	40g	41.1g
炭水化物	210g	222.3g
カルシウム	650mg	651mg
鉄	6.1mg	6.6mg
食塩換算	7g以下	7.2g

給食数（ショートステイ含む）

食形態別		食種別	
普通食	68	一般食	56
きざみ食	55	糖尿病食	17
ミキサー食	35	減塩食	78
プリン食	12	肝臓病食	17
経管栄養	0	膵臓病食	2
合計	170	貧血病食	0
		合計	170

平成31年3月31日現在



- H 30/ 5 端午の節句、春フェスタ
H 30/ 6 あじさい御膳
H 30/ 7 七夕そうめん、土用の丑の日うなぎ丼
H 30/ 8 盆踊り
H 30/ 9 敬老の日お祝い弁当、お彼岸手作りおはぎ
H 30/11 文化の日お造り御膳
H 30/12 餅つき大会、クリスマスランチ、年越しそば
H 31/ 1 おせち料理、七草粥、にぎり寿司バイキング（3北・3南）



- H 31/ 2 節分巻きずし、にぎり寿司バイキング（2北・2南）
H 31/ 3 ひな祭りちらし寿司、お彼岸手作りおはぎ
* 毎月第1日曜 喫茶会
* 毎月第3日曜 お誕生日会
* 毎月第4日曜 各フロアおやつ作り

一年を振り返って

4月の家族会では、初めての試みである家族様向けの試食会を開催しました。「ミキサー食もちゃんと味がするんですね」等、実際に提供しているものの味を知っていただけた、「嚥む力がなくても食べられますね」と、見ていただけではわからない食感を感じていただくことができました。また、栄養士側からも食形態についての説明や工夫している点を直接お伝えすることができました。座談会の時間も含め、栄養士が家族様と直接お話をすることができ、普段にはない良い機会となりました。

以前から続けていた「クッキング」についても、30年度では実践研究の1つとして取り組みました。活動中の様子をより細かく見ていくことにより、その人らしさを知ることができました。また、フロア職員と協力して行った実践研究であった為、利用者様のフロアでの様子も詳しく知ることができ、栄養士としての関わりでは分らなかった新たな一面を知ることができました。生活の中の楽しみの一つとしても、今後も続けていきたいと思えます。

新たに取り組み始めた経口維持に対する取り組みについては、多職種で協力して行い、一人一人の状態をより理解し、今後さらに良いケアに繋がっていかれると思います。

管理栄養士 弘内 優帆



看護課より

平成 30 年度の看護目標

①看護手順の改定が出来る ②利用者に対して丁寧な言葉づかいが出来る ③来訪者に対して立ち止まって挨拶が出来るでした。

①の看護手順の改定が出来るは、改定期間に完成しており、H30.10.1より改定した看護手順で看護業務を実施しました。必要時はマニュアルに戻り、引き続き全看護師が統一した質の高い看護ケアを提供できるよう活用していきます。今後、看護課は5年毎に看護手順の改定を行っていきます。

②に関しては、看護師会議出席者の意見より、7割越えて実施出来ているという評価でした。時や状況ご利用者の認知状態等で受け取り方が違う場合もあり、一概には図れない事もありますが意識し努力することを継続していきます。

③に関しては、看護師会議出席者の意見より、総合的には5割越えて実施出来ているという評価でした。今後とも、引き続き、意識し努力する事を継続していきます。

国は特養での看取りを奨励しておりますが、当施設でも看取り件数は29年度は19件、30年度は30件と前年度より増加しております。今年度、嘱託医師、甲寿園の方針にて、自然の形で安らかな看取りを目指す為、看取り期の過度な医療処置(点滴や酸素吸入)を基本的に行わない事としました。また、日々のミーティングで看取りについての話し合いを行ったり、看護師会で看取りについての研修報告を聞き、皆で情報を共有し、時代の流れに即した施設での看取りの在り方について確認し合い、看取りの書類等見直しを行いました。結果、甲寿園での看取りを多くの方にご理解頂き、病院ではなく、甲寿園を最期に過ごす場所として選んでいただいた事に繋がっていると身が引き締まる思いです。今後、甲寿園の看取りケアが更に充実し、縁あって入所された一人でも多くのご利用者に安らかな看取りを迎えていただくために、看護師として「すべきこと」は何か。特養での「質の高い看取り」とは何か、を考えていく姿勢を持ち続け、日々研鑽して参ります。

人事に関しましては、昨年末に7年半に渡り看護課のために尽力された妹背前看護課長が退職され、年度末に1名のパート看護師が退職しました。妹背前看護課長が築かれた看護課を全看護師一丸となって引き継いでいくと共に時代の流れに即した新しい看護体制を整えていきたいと思っています。質の高い統一した看護ケアを提供していくためにはエキスパート看護師の安定した人事配置が重要課題であると感じております。

今年度、ご利用者の稼働率は97.9%で、目標の98%に一步届きませんでした。背景には、やはり特養の入所規定が要介護度3以上であることが大きな要因であると考えます。現在では入所の段階で持病を多く抱えておられる方が多く、入所されてから早い段階で体調崩され、入退院を繰り返したり、看取りケアの段階になられる方が少なからずおられ、ご利用者の在日数が安定しない大きな要因であると感じております。要介護度3以上と重症化し、医療依存度が高い中で、入院件数が28年度81件29年度73件30年度82名、と昨年に比べて増加しております。同時に救急搬送も28年32件、29年24件、30年度30件と昨年と比べ増加しています。入所者の平均年齢は88歳と高齢化が進んでおり、新規入所者数は46名・退所者数46名と例年通りで数の変化は有りませんでした。

今、2025年に向けて、社会保障制度改革が進められています。医療は病院で治す「病院完結型」から地域で医療とケアと生活支援を一体的に提供する「地域完結型」へパラダイムシフトし、兵庫県においても地域医療構想の推進に向けて、入院医療から在宅医療まで切れ目のない医療提供体制づくりと地域包括ケアシステムづくりが本格的に動き出しています。今後、特養の看護師は在宅医療の介護のキーパーソンとしての役割が期待されています。引き続き、最期まで誰もがその人らしい生活を送れるように支援する専門職として、継続的かつ一貫性のある良質な看護を提供していくために必要な看護体制を整えていけるよう、日々尽力していきます。

看護課係長 八木 良子



リハビリテーション室より



リハビリテーションのまとめ

平成30年度
リハビリテーション室 報告

2018年度はデイサービスの個別機能訓練加算の算定が始まり、ショートステイへの介入は3年目へ入りました。特養の集団活動の回数は減少してしまいましたが、個別や少人数での関わり方の種類を増やすことができました。特養、ショートステイ、デイの3部署の機能訓練指導員の連携を深め、各部署でできることや課題を話し合い、利用者様と職員が行き来する機会づくりを作ってきました。今後更に3部署の連携が利用者様の楽しみや生活機能維持につながるよう、取り組んでいきたいと思います。

<特養の活動に関して>

集団活動の頻度は少なくなりましたが、個別や少人数での関わり方の種類を増やすことができました。新しい関わり方として、発表会に向けた練習や、少人数・個別での体操・レク・歩行・ミシン作業・書字活動などを行うことができました。具体的には、バザー用の作品や姿勢ケア用のクッションカバーをミシン作業で利用者様に手伝って頂くことや、季節の歌の歌詞を書いて頂き廊下に展示、歩行練習を兼ねた園内外散歩などがあります。



新しい作品たち (巾着、ネコのぬいぐるみ)

和太鼓クラブミニ発表会&新春かくし芸大会 (2019.1.18)

発足3周年を迎える和太鼓クラブの発表の機会と、リハビリ活動介入時に見えた利用者様の得意なことやいきいきとした表情でされる様子を他の方々にも披露する機会ができればと考え、同時開催という形で実施しました。また特養、ショートステイ、デイサービスの3部署の連携も深めるため、3部署の利用者様が関われるよう考えました。初めての企画で、クラブ活動の範囲内で実施できるよう小規模での開催となりましたが、発表者枠で参加された方々も見学として参加された方々にも楽しんで頂けて良かったです。次年度も利用者様の楽しみや刺激、目標の機会として計画したいと思います。

発表内容・・・①和太鼓クラブの演奏 (三三七拍子)

②歌唱

③ウクレレ演奏

④職員の出し物 (傘回し、皿回し)

⑤日本舞踊

⑥和太鼓クラブの演奏 (村祭り)

発表者：特養和太鼓クラブ14名、特養2名、ショート・デイ1名、

見学：特養・ショート12名程度、デイ20名程度



当日使用する看板やめくりは、書字の得意な方に手伝って頂きました



和太鼓発表前に挨拶

和太鼓クラブ「若トラ」初めての発表

今年の目標

今年度と次年度の継続した取り組みですが、2019年になってからリハビリ室に来られた利用者様に今年の目標を書いて頂きました。リハビリ室の入口に飾っています。月日を経つにつれて目標が増えてきました。年末に目標がどうだったか、振り返りをしようと考えています。書いたことを覚えている方は、リハビリ室に目標を見に来られる方もいました。皆さんの目標がかなえられるよう、支援していきたいです。



姿勢ケア・機器の管理

車椅子やベッドでの安楽な姿勢、褥瘡予防、拘縮予防のための姿勢検討を継続しました。

車椅子やクッションの管理も継続し、特養、ショートステイ、デイサービスの各部署に必要な車椅子等を購入しました。

特 養：背張り調整付き車椅子2台、歩行器2台

ショートステイ：背張り調整付き車椅子1台、チルトクライニング式車椅子1台、歩行器2台

デイサービス：背張り調整付き車椅子2台

リハビリ会議

クラブ活動等のメンバー調整、参加時の様子報告、姿勢や活動に関する話し合いを行いました。

フロアでのミニ研修はできませんでしたが、会議内でのミニ研修は実施することができました。

ミニ研修の内容：シーティング、ポジショニング

リハビリテーション室係長 小田 浩美



在宅事業関係の事業報告

居宅介護支援事業所

平成 30 年度は、管理者他主任介護支援専門員 1 名、介護支援専門員 2 名を配置し特定事業所加算Ⅲを取得してきましたが年間を通じて安定した経営を行うことができました。

ひとり暮らしや認知症の方のケアプランも積極的に受け、住み慣れたご自宅で生活できるように介護保険のサービス以外の地域貢献活動にも参加企画し、地域との信頼を深め関係性の構築に努めました。

医療関係機関や地域包括支援センターと連携を取りながら複合的に課題を抱えておられるご家族の支援も行っていました。

介護支援専門員は、勉強会参加をはじめ、情報共有の徹底を行いました。さらに、お互いのケアプランをチェックしあう事によってそれぞれの課題に気づきことができ、書式の統一化を図り残務処理の迅速化に繋がりました。

上記のように、それぞれ課題に気づき情報共有しやすい環境作りを図ることで職員間のグリーフケアにも繋がりが相談件数を増やすことができ次年度につながるものとなりました。

甲寿園居宅介護支援事業所主任 深井 奈津子

短期入所生活介護事業ショートステイ(定員 14 名)

短期入所事業は、特別養護老人ホーム空床利用を含め、1 日平均 16.8 名、平均利用率 120%を目標に事業を進めてきました。今年度は 1 日平均 16.6 名、平均利用率 120.7%となり目標を達成し、定員 14 名以上の利用率は維持しています。

今年度は感染症が 1 年間流行ることなく感染対策の効果もありご利用者を安定して受け入れることができました。個別機能訓練も 3 年目に入り軌道に乗りご利用者にリハビリを提供することで再利用して頂いている方が増加し、サービスに満足していただき安定した利用率に繋がっています。

また特養と連携を図り、特養入居をご希望されている方ができるだけ良いタイミングで入居していただけるように甲寿園の相談員同士で情報共有を図ることも可能になりました。

来年度もより良い在宅生活ができるだけ長く続けられるように、長く住み慣れた地域でより過ごしていただく事ができますように、ご利用者だけではなく介護されているご家族も含めて支援していきます。

面接件数・初回利用

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
面接件数	4	5	12	9	5	6	10	6	1	7	6	4	75 件
初回利用者数	4	4	6	7	7	6	7	5	6	7	0	9	68 件

短期入所利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1 日平均	17.7	15.6	18.1	17.2	16.7	17.2	16.3	18.1	16.7	16.1	16.9	16.5	16.9
利用率	124.3	111.4	129.3	122.9	119.3	122.9	116.4	129.3	119.3	115	120.7	117.9	120.7

緊急短期入所利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	4	1	1	3	1	4	2	2	1	2	2	1	24 件
緊急受入件数	2	0	0	0	1	3	2	1	0	1	0	1	11 件

短期入所生活介護主任 相談員 柳田 賢二

通所介護事業デイサービス（定員 30 名）

通所介護は、1日平均25名、利用率85%を目標に事業を進めてきました。今年度は、1日平均25.6名、平均利用率85.2%となり目標を達成することが出来ました。今年度より個別機能訓練指導員として作業療法士を配置しました。活動内容は、創作活動、集団レクリエーション、個別リハビリを主に実施しました。

創作活動は、季節感を感じていただけるように、大きなカレンダーを作製し、工程を分担しながら利用者の方に合わせた作業内容を提供しています。他者とのコミュニケーションを交えて、手先の巧緻性や集中力を高めていくことを目的としています。また、2ヶ月に1回は利用者の方に手作りで作品を作って持ち帰っていただいています。

集団レクリエーションでは、ご自宅でできる体操をゆっくり取り組んでいます。上肢、下肢、指の体操など普段日常では動かさない筋肉を、動作を交えて説明し、自宅でも無理をしないでできる方法をお伝えしています。その他、脳トレや回想、レクリエーションの幅も広げて実施しています。

個別リハビリでは、ご家族に自宅での生活の様子を聴取した上で、自宅で長く生活していけるように、身体的能力の維持を図っています。階段昇降、歩行練習、立位練習など、作業療法士の助言のもとで個人に合わせたプログラムを実施しています。

活動を実施していく上で、デイでの活動が自宅につながるように、またご家族が安心してデイサービスをご利用していただけるように、連絡帳にその日の様子を細かく記入し活動写真を貼るようにしています。ご家族の方からも、利用中の様子がわかって安心という声もあります。認知症の進行や要介護度が高くなると、「できないこと」に目を向けてしまう傾向にあります。ご利用中はできるだけご利用者の笑顔でイキイキしている様子を、ご家族にも知っていただけるように「できること」に着目して介入を心がけています。昨年度より要介護3以上のご利用者を3割以上受け入れる中重度者ケア体制を継続して行いました。現在も胃瘻造設された方、酸素流用の方、インスリンの方など医療ニーズの高い方も継続して利用されています。

これからのデイサービスに求められる明確な役割は、ご利用者一人ひとりを自立する方向に導き、家と施設をつなぎながら心身機能を向上させていく支援を行う事です。つまりこれからのデイサービスは「自立支援」の考え方をより意識する事が必要になってきます。機能訓練、認知症や中重度の方の対応、生活機能の向上はもちろんですが、心身機能が維持・向上したという結果が求められてきます。

昨年度も書きましたが、職員一丸となって、常に向上心を持って職務にあたっています。

通所介護利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1日平均（人）	25.9	25.4	25.0	25.2	25.3	24.7	26.0	25.1	25.2	25.0	26.8	27.2	25.6
利用率（%）	86.3	84.7	83.3	84.0	84.3	82.3	86.7	83.7	84.0	83.3	89.3	90.7	85.3

通所介護主任 高田 健太郎

甲寿園地域貢献事業

健康カルチャー教室 ハイカラ倶楽部

「ハイカラ倶楽部」は、特別養護老人ホーム甲寿園が地域貢献のために地域住民を対象に実施しているつどい場です。

2017年度は専門の音楽療法士が主導となり職員が「ハイカラ倶楽部」を企画、運営してきましたが2018年度は地域の方が主体的に活動される場として位置づけてきました。特技や好きなことを生かして地域の方に講師を担っていただき地域の方がどなたでも参加していただくようにしました。

甲寿園の地域交流スペースであるアクティブルーム、わいわい広場、あいあいホールを会場に月1回程度開催しました。

4月は「音楽で脳トレ」と題し音楽療法の講座を実施しました。5月ハイカラ倶楽部は休止し、春フェスタを開催しました。6月は「フレイル予防～踊りと体操」で講師も含め16人参加されました。7月は「折り紙」の会を実施しました。夏休みの子供たちの参加を想定し苦楽園小学校の夏祭りでチラシの配布を行いました子供たちの参加は得られませんでした。8月は「体に優しいスイーツをみんなで作りましょう～お菓子づくり」を兵庫栄養専門学校教授と学生ボランティアで担っていただきました。夏休みの小学生、総合相談支援センターに通われている若いお母さんも乳幼児とともに参加されることとなり保育のボランティアを要請いたしました。この会では多世代で交流を行うことができました。9月は鷲林寺地区の方に「詩吟」の講師、北夙川地区の方にお茶のお点前を担っていただきました。10月は「地元野菜で秋を食す」で鷲林寺地区の野菜を使って参加者全員で調理したお弁当を食しました。後も参加者同士のつながりが得られました。11月はクリスマスリースづくりを行いました。低額の参加費で完成度の高い作品を持ち帰りされ参加者には満足度が高い講座となりました。12月は「みんなで福をつくろう～しめ縄づくり」を鷲林寺在住の方で担っていただきました。1月は「卓球」の会を行いました。寒さの中、大いに体を動かすことができました。2月は「囲碁・将棋・麻雀」の会となりました。麻雀が初めての参加者も多く、リピート開催の要望が強かったため、以後も毎月開催となり用具も持参され自主的に運営が行われています。

以上、甲寿園地域貢献プロジェクトとして多種多様な趣味の取り組みを実施してきましたが広報不足もあり地域の方にはまだまだ見えにくい活動となっています。

次年度に向けて年間計画の必要性、甲寿園内外の連携不足や甲寿園へのアクセスの課題が残りました。

在宅支援課長 瀬戸 涼子

第6回春フェスタ

第6回春フェスタは5月18日(金) 甲寿園中庭を主会場に開催致しました。

この準備のための実行委員会は3月28日からの実施で遅い準備となりましたが実行員会には鷲林寺地区自治会長をはじめ何人かの地域の方にも参画していただくことができました。そのおかげで地域の方の仲介で苦楽園小学校よりテントを借りることができました。舞台看板や立て看板は甲寿園とにしのみや苑のデイサービス利用者が作製されました。ちらしは法人事務局にて900枚印刷し地域の関係機関や事業所に配布しました。西宮市ケアマネジャー協会を通じて居宅介護支援事業所、地域の事業所にも案内し多くのケアマネジャーの参加を得ています。

今年はプレ企画として柏堂地区在住の86歳の女性によるオペラコンサートを行いました。合わせて中庭での催し物も「おやじバンド」の演奏、甲寿園やにしのみや苑利用者をはじめ地域の方が主体的に参加していただける内容を検討し「のど自慢大会」を実施しました。のど自慢大会は8組の参加者がありました。一方、館内あいあいホールでは瓦木消防署甲東分署職員の協力を得て救命救急講習を行いました。講習会にはトライやるウィーク活動中の中学生も参加しました。

ブースは焼きそば、焼きおにぎり、野菜スープ、喫茶コーナー、野菜販売、ジャムやクッキー販売のコーナーを設けました。喫茶コーナーの運営はほぼボランティアで担っていただきました。北夙川・苦楽園小学校区民生児童委員協議会の民生児童委員は例年通り午前中よりにしのみや苑にて会議を済ませ、その後に春フェスタへ参加していただきました。合わせて北夙川ボランティアセンターより甲寿園デイサービス利用者へお手玉のプレゼントがありました。

また、着ぐるみの「みやたん」や「はばたん」「アンパンマン」も雰囲気盛り上げてくれました。総勢300人の参加で楽しく交流できました。

春フェスタが少しずつ「地域の春のお祭り」として地域に根付いていけるよう今後準備に早く取りかかれるようにしていきます。

在宅支援課長 瀬戸 涼子